

企業名： アサヒホールディングス

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。

「環境と社会をつなぐ循環経済の担い手」であらねばならないとあるが、これに関して動脈と静脈を用いた説明が非常にわかりやすかった。動脈に例えられる各種工業に対して、貴金属のリサイクルや産業廃棄物の処理などを手掛けるアサヒ HD はいわば静脈であり、価値あるものを再び動脈に送り届けるのが会社の役割だという。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

おおむね理解できる。

貴金属リサイクルにおける競争優位性は「エレクトロニクス・触媒・歯科・宝飾などの幅広い分野に対応しており、最先端の技術と蓄積されたノウハウを駆使し、さまざまな形状や性状を有する原材料を最適な方法により効率的にリサイクルできるという点」、「工場が技術・ノウハウを磨き上げ、それを4バックにもって、訓練された営業員が顧客密着度の高い営業活動を行っているという一体的な強み」であると書かれているが、貴金属精錬についてはそれ自体の競争優位性についての記述は見つけれなかった。環境保全事業における競争優位性は「環境保全のビジネスを高度に知識集約化している点」とある。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。

貴金属事業に関してはすでに海外進出を進めており世界でも有数の規模を誇るが、いまだインドをはじめとした広大な未開拓市場がある。今後はさらにグローバル展開を進めていくことになるが、日本国内やこれまでの海外事業で培った技術やノウハウは今後も生かせるだろう。環境保全事業に関しては、前述した環境保全ビジネスが高度に知識集約化されているという点に加え、それらを海外展開することやデジタルプラットフォームによるサービスの開始などによりさらなる成長が期待できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。

人材育成の取り組みとして、①「成果主義と能力主義」の徹底、②ダイバーシティ&インクルージョンの推進、③全幹部社員を対象とした多面評価、④学びと挑戦の機会 を掲げているが、特に興味深いのは④の学びと挑戦の機会だ。グローバルに活躍するために海外拠点

と連携した海外管理職研修プログラムや、海外拠点でのトレーニー制度の活用、さらに事業化の可能性の高いアイデアを持つ社員及びチームが自ら事業を立ち上げ、運営を行う社内ベンチャー制度などさまざまな機会が用意されており、自分自身の人的資本の価値向上につながると感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

事業内容が比較的近い DOWA ホールディングスの統合報告書にも目を通し、比較した。アサヒ HD が優れていると感じた点は、統合報告書の簡潔さだ。PDF で 100 ページを超える企業もある中、31 ページで必要事項を説明している点は非常によい。

ただ、レイアウトの工夫がもう少し必要だろう。「アサヒホールディングスを知る」の部分が若干読みにくい配置となっていると感じた。DOWA ホールディングスのものは小見出しごとにきれいにまとまっており読みやすく、また読み手の注意をより引き付けやすいデザインとなっていた。